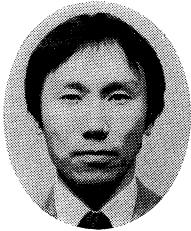


隨

想

すいそうすいそうすいそう

声



山
崎

亨

「おはよう」「……」子供たちからは、「おはようございます」という声がもどつてこない。能面のように無表情で、ただ頭を下げるだけのY君。目がとろんとして今にも眠り込んでしまいそうな感じのK君。「おはようございます」と発声はするが、正しい音声にはならず、のどに何か物が詰まっているような声しか聞こえないMさん。こんな三人が、新任教師の私を待っていた。

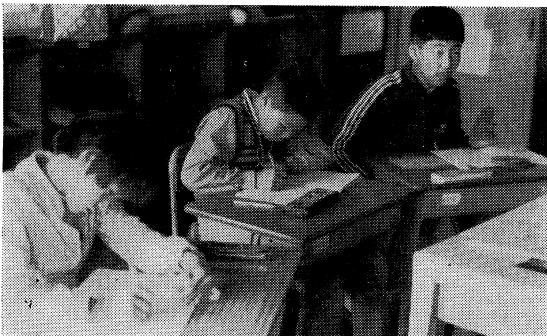
あれもしよう、これもしよう、といふ焦りだけが残ったまま、一学期が終わってしまった。二学期に入り、子供たちは、徐々に「ぼくらの先生」として、私を受けとめてくれるようになつた。私の気持ちがいく分かでも子供の心に入り込んでいったのか。Y君は、

日がたつにつれ、「おはようございます」「さようなら」が、声らしい声には、なつていながら言えるよう取つて、にこにこしながら言えるようになってきた。K君は、言語を多く使用する教科学習の場では、依然として眠そうな顔つきのままだが、体育、音楽、教室の整理、整など、体を動かす場では、目を輝かせながら、自分でいろいろと工夫をし、楽しそうに活動するようになってくれた。Mさんはとっても気分屋で、いやだとなると一時間の授業中ずっとふくれたまま、まったく授業にならず終わってしまう。そんな彼女が、休み時間、一緒にドッジボールなどで力一杯遊べば、それまでのふくれ面は消え、次の授業ではリーダーシップを發揮し他の二人をぐん

ぐん引っぱつてくれるようになった。

こんな時、ようやく子供たちと一緒に個人差が非常に大きいと言われている。私のクラスも、その例にもれない。学習の面白ばかりでなく、社会的適応能力についても、かなりの個人差がある。

学習内容をどう精選していくたら、この子供たちに合ったものになるだろうか。授業はどう進めていったらよいのだろうか。一人一人にあつた教育とは、一体どうあるべきなのか、など新米教師の頭の中には四、六時中このようなことがうずまいている。



よし！ わかったぞ

児童は、教師の指示がわからない。質問されているのか。指示されているのか、わからない。こんな時、授業はからまわりし、一步も前進しない。また教師は、児童の声がわからない。健常児が自然に発する様々な声、休み時間の遊び声、授業中のボソボソという声、つぶやき、とんちんかんな答えをする声、こんな声を、聾児も盛んに発しているのだが、教師になかなか理解できにくい。ここがとてもつらい。教師ばかりでなく子供たちにとっても苦しいことである。正しく意が伝わらないということは、こんなにも苦しいものなのか、聞こえないということが、こんなにも重く子供たちにのしかかっているものなのかな。

休み時間に、一緒にボールで遊ぶ。そこには、生き生きした子供の顔がある。目を輝かせ、無心に遊ぶ顔がある。体じゅうからエネルギーを発散させ、元気いっぱいに活動する子供たちには、大人には真似できない何かがある。子供たちと、ドロまみれになって遊び、聞こえないハンディを共に悩み、わかる喜びを共に感じることのできる教師でありたいと思う。

(福島県立聾学校教諭)